

令和 6 年度 大阪市立阿倍野区老人福祉センター 事業実績報告書

施設概要

施 設 名	大阪市立阿倍野区老人福祉センター
所 在 地	大阪市阿倍野区阪南町 5-12-26
施 設 規 模	鉄筋コンクリート造 5 階建のうち 1 階及び 2 階の一部 延床面積 471.00m ²
主 な 施 設	大広間、会議室、講習室など
市が設定した数値目標	センター利用向け実施する満足度調査で、「満足と回答された方」の割合を 85.6%以上とする。(市内 26 館における過去 3 年間の平均) 令和 2 年度から 4 年度の平均年間利用人数：11,721 人 令和 2 年度から 4 年度の平均年間登録人数：319 人
令和 6 年度満足度数	94.5% (120/127) 満足+やや満足 120 名／回答者数 127 名
令和 6 年度利用人数	14,365 人
令和 6 年度登録人数	374 人

指定管理者

団 体 名	社会福祉法人 大阪市阿倍野区社会福祉協議会
事 務 所 の 所 在 地	大阪市阿倍野区帝塚山 1-3-8
代 表 者	会長 永岡正己
指 定 期 間	令和 6 年 4 月 1 日から令和 11 年 3 月 31 日
報 告 対 象 期 間	令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日
担 当 者	植田 隆夫
連 絡 先	(06) 6623-8052

1 指定管理業務の実施状況(1)施設の運営方針

老人福祉センターは阿倍野区に住む誰もが安心して生き生きと暮らせるまちづくりを基本理念としています。この基本理念に基づく管理運営方針として、区役所と連携を密にして、高齢者はもとより区民に期待・信頼される高齢者福祉の活動拠点とすることを目指して運営を行いました。事業を実施するに当たっては、多様化する高齢者のニーズに応えるため代表者連絡会やモニタリング調査、事業ごとのアンケートを通じて教養講座、レクリエーション活動を企画・実施しました。また、認知症カフェの開催や利用者によるボランティア活動の支援も行いました。

(2)施設の維持管理

- 朝の全室清掃 職員により毎日（※チェック表を活用）実施
- 利用者退館後のトイレ清掃を職員により毎日実施
- 「施設管理者の手引き」に基づく建物、設備の自主点検を年2回実施
- 「フロン排出抑制法」に基づく室外機の点検を年4回実施
- 専門業者による自動ドアの保守点検を年4回実施
- 専門業者による消防設備点検を年2回実施
- 専門業者による貯水槽清掃及び水質検査を年1回実施
- 専門業者によるカーペット及び空調設備の清掃を年1回実施
- 専門業者による特定建築物定期点検を年1回実施

(3)職員の配置状況

施設長 1 名、嘱託職員 3 名

(4)感染症拡大を防止するための対策等の状況

密の回避 イベント、サークル等へは開催場所のスペースに合わせた参加人数としました。

消毒の励行 受付、廊下などにアルコール消毒液を配置しました。

マスク着用 イベントやサークル、その他利用内容にかかわらず、館内に滞在中はマスク着用をお願いしました。

常時換気 館内にある換気扇は常時稼働としました。併せて窓の開閉による換気も、季節や利用条件に合わせて職員が適切に管理しました。

利用者管理 開放事業（囲碁・将棋）については、当日の利用者を具体的に把握しました。

(5)危機管理・安全管理（事故防止等安全対策、災害等緊急時の対応への準備）

- 突発的な事故に対しては、事故対応マニュアルを掲示し職員に周知徹底しています。
- 緊急時に備えて、避難経路を各部屋の利用者が目につきやすい個所に掲示しています。
また、年2回の消防訓練を行い同時に避難経路の確認も行いました。
- 地域・避難所連絡会や福祉避難所連絡会議に参加し地域での取組みや課題や不安な点などについての意見交換を行い、また連携の仕方などについて話し合いを行っています。
- 区社会福祉協議会において災害時対策要綱、動員計画を定めています。

2 利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延利用人数	1,289	1,167	1,201	1,293	947	1,180	1,297	1,384	1,131	1,102	1,105	1,269	14,365
登録者数	251	21	11	16	5	11	9	11	8	7	9	15	374

3 実施事業

(1)事業報告

①事業計画 (P)

「だれもが安心して暮らせるつながりのあるまちづくり」を基本方針として、5つのキーワード『つなぐ・はぐくむ・ささえる・つくる・みえる』を意識して各事業の展開を図る計画を持ちました。

①高齢になっても社会とのつながりを持ち、豊富な経験や特技を活かして地域活動や新たな社会参加ができるよう『つなぐ』役割を果たします

②センターが保育園と隣接している環境を活かして、世代間交流に取り組みます。

③「認知症の人をささえるまち大阪宣言」に基づき、元気な高齢者も要援護者を『ささえる』側となり社会的役割を担います。

④地域包括ケアシステムの実現にむけて、支え合いや助け合いができる生活支援体制を『つくる』ため高齢者も一翼を担います。

⑤当法人の強みである住民との信頼関係や、行政機関・社会福祉施設・福祉関係機関・民生児童委員・ボランティア・NPO・企業とのネットワークを活かして広く情報発信『みえる』化し、認知されるセンターを目指します。

以上の事業計画に照らして、「生きがいつくり事業」「世代間交流事業」「高齢者の自主的な地域福祉活動支援」「健康づくりと介護予防の促進」をキーワードに設定し、事業を展開しました。

各事業とも感染症拡大防止の観点から三密を避け、マスクの着用、換気、消毒、利用者の健康状態の把握など、利用者の安全確保と職員の体調管理には注意を払いました。

②活動内容 (D) (今年度の取組内容)

・「囲碁・将棋」男性の居場所提供（生きがい）、孤立防止を目的として、月曜から土曜日まで、老人福祉センター開所日はすべて開催した結果、年間延利用者は2, 107人となりました。

・「落語会」は計画通り年5回実施。(合計参加者108名)

・介護予防講座は計画2回実施のところ1回実施。(20名参加)

・健康セミナーは計画2回実施のところ1回実施。(30名参加)

・「かんたん体操」は計画通り年6回目実施。(合計参加者「102名」)

・「輪投げ大会」は計画通り3回実施。(合計参加者89名)

・「かみかみ体操」は計画通り毎土曜日に実施。(合計参加者203名)

・工作教室は「干支の色紙づくり」を実施しました。人気講座のため2回実施。

「絵手紙年賀状作り」は1回実施。(合計参加者49名)

・「弾き語りギターコンサート」は計画通り1回実施。(参加者27名)

・「お誕生会」は計画通り年6回実施。(合計参加者175名)

・「つながりフェスタ」は衆議院選挙のため中止。

・「スマートフォン講習会」は計画3回のところ2回実施。(合計参加者25名)

③チェック (C) (成果、課題)

- ・開放事業である「囲碁・将棋」については、前年度に比べ延べ554名の利用者減になりました。要因としては毎日元気に来られていた方数名が加齢による健康障害や体力低下などで来られなくなったと考えます。また将棋は、利用者が少なくなったことにより対戦相手が固定化し、面白味に欠けることも考えられます。
- ・「落語会」は毎回楽しみにしておられる参加者が固定客となっています。開催回数・参加人数ともに目標を達成しました。これまで参加されたことのない方にも面白さを知っていただき、さらに参加人数を増やすことが課題です。
- ・介護予防講座は年間2回開催の予定であったが日程の都合がつかず1回の開催となりました。
- ・健康講座も年間2回開催の予定であったが主催者と会場の調整ができず1回の開催になりました。
- ・「かんたん体操」は実施回数は目標通りでしたが、参加人数は目標を18名下回った。毎回当日キャンセルされる方があったため。毎回の募集時に当日キャンセルされる方を見越して多めに受け付けることを考える必要があります。
- ・「輪投げ大会」については例年2回に対して、計画時から3回を予定して計画通り実施できた。参加人数もおおむね目標通りでした。マンネリにならないよう進行に工夫が必要です。
- ・「かみかみ体操」は毎週土曜日に自由参加で実施しています。年度後半に若い参加者も増えて参加人数も目標達成できました。参加者間の「つながり」もできて雰囲気も良くなりました。
- ・工作講習会（「絵手紙年賀状作り」「干支の色紙作り」）は予定通りの回数で、参加人数も目標を上回りました。毎年、楽しみに干支を集めて参加される方に支えられています。新たに参加される方を取り込む工夫（広報、実施回数）次第では参加者を増やせる余地があると思われます。
- ・「弾き語りギターコンサート」はセンター事業で1回、いきがい事業で2回合計3回実施しました。固定ファンも多く人気もあり口コミも期待できるので次年度は回数を増やして実施したい。
- ・「お誕生会」は回数、参加人数ともに目標を上回りました。周知・広報に工夫すればまだ参加人数を増やせる余地があると思われます。
- ・スマートフォン講座については参加者も少なかったことから、主催者側の最小催行人数の条件もあり、2回の開催（予定3回）にとどめました。利用者はスマホ初心者の方が多く、本格的な教室ととられハードルが高かったのではと思われます。また「ちょこっとスマホ」を社協のボランティアの方によって定期的開催されているため、いつでも相談できるという影響も考えられます。

④改善策 (A) (次年度に向けた改善内容)

- ・開放事業「囲碁・将棋」のうち「将棋」の利用者減については深刻な事態と受け止めています。阿倍野区内の連合会館ルートの活用（ポスターやチラシの回覧）などを計画します。また各センター行事実施の際にアナウンスを行います。足が遠のいている利用者にはセンター職員が声掛けを行います。
- ・「介護予防講座」「健康セミナー」については開催すれば参加者が集まるので、年度の早

い時期にそれぞれ 2 回実施します。

- ・スマートフォン講座については各回、内容は充実していて、講義中のサポート体制もあったが参加者は伸び悩んだ。利用者が毎回のテーマを事前に「この機能を自分の生活の中に取り込んで生活の質を向上させよう」という意識に直結できなかったことが課題です。広報の際に講座で取り上げるテーマ（機能）をわかりやすく伝えるようにします。

(2) 平等利用の確保

- ・例年通りに区内の高齢者が多く利用できるよう、市や区の広報誌、ホームページ、センターだより等を通じて、広く情報発信を行います。
- ・北部地区にお住まいの方々にもご利用いただけるように「お出かけ講座」を実施し、遠方の方々にもセンターの周知に努めます。
- ・ヨガサークルのように入会希望者が多いサークルでは、組数を増やして利用者が活動に参加できる機会を増やすとともに、参加者が少ないサークルを集約しつつ、新しいサークルの新設を目指します。

(3) 利用者サービスの向上策

- ・利用者の永年の要望であった 2 階女子トイレの洋式化（ウォッシュレット化）については、3 月より工事が始まり、4 月上旬に完成予定です。これにより 2 階女子トイレについては 3 台すべてが洋式化（ウォッシュレット化）されます。
- ・例年通り利用者に季節感を感じていただけるよう、職員が折り紙で掲示板や廊下、踊り場などを飾り付けました。また、夏場はカーテンだけでなく、すだれを各部屋に設置して涼しさを演出しました。7 年度でも継続していきます。
- ・引き続いて、受付に「目安箱」を設けて、利用者が提言しやすい環境に配慮します。

(4) センターの利用促進策

- ・令和 5 年度に再開した認知症カフェ（ほのぼのあいちゃん）を引き続き継続しました。軽度の認知症の方を対象とした集いの場として、月 1 回、定期的に開催しました。当事者だけでなく家族にも参加していただき、相談の場の提供も行ってきました。
- ・阿倍野区社会福祉協議会発行「えいち」に老人福祉センターの案内を載せ老人福祉センター事業の紹介を行いました。
- ・モニタリング調査により利用者の要望や満足度を把握するとともに、事業ごとにアンケートを行い職員で内容を共有化しましたので、内容の充実に活かします。
- ・日ごろより利用者との対話を心がけ、些細なことでも相談しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、普段と様子が違うなど気になった時には地域包括支援センターや見守り相談室、地域福祉コーディネーター、あべのオレンジチームに連絡し、見守りや必要な関係機関につなぐ等の体制づくりに努めました。
- ・老人クラブ連合会の役員会をはじめ各種事業の開催にあたり企画段階から参画し、準備や運営を支援しました。また、センターだよりに老人クラブコーナーを設け、活動案内や行事の広報を実践しました。
- ・センター入口付近にサークルや利用者の作品を展示して、センターに興味を持ってもらえるように工夫しています。

(5) 利用者からの苦情・意見・満足度の把握

- ・受付へ直接提案いただくとともに、目安箱を設けています。
- ・そのほか利用促進策としても利用していますが、モニタリング調査による利用者の要望や満足度の把握や事業ごとのアンケートで、情報を収集しています。
- ・職員と利用者の会話にも情報があるため、お声掛けや雑談も大切にしています。一例として、利用者からマスクの未着用者や滞在時間を守らない利用者があるなどの苦情があれば、当事者に対して事実を確かめ、改善を求めています。
- ・年2回開催する「サークル代表者連絡会」においても意見、要望、苦情を聴取しました。

4 地域との連携・人材育成

(1) 地域の関係団体・施設との連携

- ・あべのカーニバル（区民祭り）において、阿倍野区社会福祉協議会ブースで老人福祉センターの紹介を行うとともにセンターだよりを400部配布しました。また、阿倍野区老人クラブ連合会ブースにて来場者に配布する記念品（手製のペットボトルキャップ555個）作成の支援（作成費用の支援）を行いました。
- ・地域医療福祉懇話会のメンバーとして会議に参加し、地域医療の現状や問題点を共有しました。
- ・阿倍野区避難所連絡会議のメンバー（区内の福祉施設）として会議に参加し、災害発生時に避難所として機能すべく区役所を中心としてメンバー間で情報を共有している。

(2) 人材育成・ボランティア活動支援等

- ・阿倍野区社会福祉協議会が実施したスマホボランティア養成講座の修了生による「スマホ相談会」（月に1回開催）を継続実施することでボランティア養成を支援しました。
- ・センターのサークル活動（太極拳）利用者で結成されたボランティアサークル（近隣区の老人施設において、入所者に対して脳活トレーニング、ゲーム・歌・踊り等レクリエーションの実施）の支援を行いました。支援内容は、サークルメンバーの練習場所、打合せ場所の提供です。太極拳サークルは令和6年度に大阪市長より感謝状（継続15年活動）を受けています。
- ・センターのサークル活動（コーラス）利用者で結成されたボランティアサークルについても同様の支援を行っています。コーラスサークルは令和5年度に大阪市長より感謝状（継続15年活動）を受けています。
- ・高齢者の豊富な経験を活かして「ふれあい喫茶（サロン）」を実施することで日常生活圏域ごとの居場所づくりを促進できる人材育成も計画していました。これについては年5回の落語会で実施することができました。

5 その他

(1) 職員研修の実施状況

- ・「労務管理とハラスメント」（大阪市社会福祉協議会）
- ・「子どもの権利について」（人権研修1回目：大阪市社会福祉協議会）
- ・「カスタマーハラスメント」（人権研修2回目：大阪市社会福祉協議会）
- ・「合理的配慮の提供について」（大阪市福祉局障がい者施策部障がい福祉課）

- ・「AED 研修」(WEB 上で職員が各自受講)
- ・「認知症の方の意思決定」(人権研修 3 回目：大阪市社会福祉協議会)
- ・「高齢者をケアするケアラー支援について」(人権研修 4 回目：大阪市社会福祉協議会)

(2) 個人情報の保護・情報公開について

- ・利用証交付申請書や参加者名簿などの個人情報は、保管庫で施錠し収納しています。
- ・老人福祉センター施設運営委員会及び理事会、評議員会にて事業及び決算報告、事業計画、予算案について説明し情報を公開しています。

(3) 職員の労働条件の確保・環境への配慮

- ・タイムカードを活用して勤務時間を把握しています。また、働き方改革に沿って年 5 日の年休取得の義務化を遵守しました。

6 収支決算状況

(単位：円)

収 入 (項目)		内 訳	計 画	決 算
	業務代行料	大阪市からの業務代行料	17,611,000	17,611,000
	雑収入等		0	0
収入合計 (A)		—	17,611,000	17,611,000
支 出 (項目)		内 訳	計 画	決 算
	人件費	職員 4 名分	13,830,000	12,324,535
	物件費	事業費、管理費	3,781,000	4,896,952
支出合計 (B)		—	17,611,000	17,221,487
収支 (A) - (B)			0	389,513

【計画と決算の差額の主な理由】

- ・人件費の高騰を見込んだ計画数値との差が生じました。
- ・光熱費（水道、ガス、電気）の高騰を見込んだ計画数値との差が生じました。

【経費節減のために主に取り組んだこと】

- ・比較見積りものの厳格化を行い、物品の購入費用の縮減に努めました。
- ・夏季、冬季において、館内の各部屋のエアコンをこまめに操作（切り入れ、温度変更）し、節電に努めました。